

令和7年度 第1回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会 要旨

日 時 令和7年7月4日（金）19時～20時20分

場 所 高梁市役所 2階 保健センター

出席委員 仲田委員、鶴見委員、野村委員、樋口委員、笹川委員、草野委員、
熊本委員、荒木委員、植田委員（安井委員代理）、三尾委員、佐藤委員、
田頭委員、原田委員、森宗委員（内田委員代理）惣田委員、
松浦委員（ラインワークスにて）

欠席委員 竹崎委員、磯村委員

1 開 会

2 あいさつ

仲田会長：地域の在宅医療がスムーズになるよう、皆さんの意見を活発にお願いしたい。

3 協 議 事 項

（1）令和7年度高梁市における地域ケア会議の全体像について P 2～3

<令和7年度の事業計画について>

（2）在宅医療・介護連携推進事業について P 4～7

案了承

（3）実務者部会について P 8

（4）高梁かんばんについて P 9～19

4 そ の 他

5 閉 会

草野副会長：昨年度の振り返り、事業評価。今年度の計画について熱心に協議いただいた。ケアマネ協会として、県の会議に出向くことがあるが、高梁市のラインワークスの事業所カバー率が高く、非常に優れていると感じ

じる。災害時の活用も考えていて、また先に進んでいる印象。

キットの話も出ましたが、アナログな情報も大事である。過去の実績を評価しながら、次の計画に取り組むことが必要。

かんごねっとの取組みも非常に素晴らしい。こういった様々な事業で、市の在宅医療介護連携が成り立っている。次回の会議も決定しているので、それぞれの現場で医療介護の連携について促進をしていただきたい。

※令和7年度第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会

日時：令和8年2月6日（金）19：00～

会議要旨

(1) 令和7年度高梁市における地域ケア会議の全体像について

仲田会長：この会議体制について、毎年少しずつ変更があるのでしょうか。

事務局：大きな変更はないです。

(2) 在宅医療・介護連携推進事業について

仲田会長：市民公開講座について、佐藤委員意見はありますか。

佐藤委員：認知症当事者の声が聞けるという事で、良い企画だと思います。

野村委員：会議資料であるが、事前にメール等でいただく事は可能か。事前に目を通しておけば、会議で意見を求められても回答できると思う。

事務局：ラインワークスで資料送付は可能であるため、次回からはそのようにさせていただきます。

仲田会長：市民公開講座の趣向を変えて実施されるので、楽しみにしている。

認知症簡易検査もあり、自身の現実を知るのも重要な事だと考える。

熊本委員：脳の簡易検査であるが、会場に来た人は誰でも受ける事が出来るのか。

事務局：事前予約制で想定している。検査と結果説明で、30分程度必要であるため、イベント前と後で5名ずつの10名程度を想定している。検査へスタッフの人員がとられるので、大勢は対応できないのが現実。事前申し込みが少なければ、当日の飛込参加も対応できるかもしれない。逆に申し込みが殺到した際は、別の機会で、検査を実施する事も検討したい。

仲田会長：災害時にラインワークスを活用するような話も出ているが、その辺りはいかがでしょうか。

事務局：実務者部会事業として報告をする予定でしたが、ラインワークスを運営している会社からも提案があり、現場で使用をしている実務者の方と相談しながら、今年度中に災害時の訓練をする予定です。

(3) 実務者部会について

仲田会長：実務者部会事業について、三尾委員から補足はありますか。

三尾委員：実務者部会で意見を聞きながら事業を実施していく予定ですが、研修会が非常に好評であったので、対面式になると思いますが実施したい。

ラインワークスについては、現場では使わない日々はない。災害時

の運用については、イメージがついていないが、実務者で検討できればと思います。

仲田会長：佐藤委員から補足はありますでしょうか。

佐藤委員：三尾委員の意見のとおりですが、災害時であればE M I Sとの絡みも出てくると思うので、検討をしていきたい。

仲田会長：私のイメージとして、介護事業所の多くが参加しているので、平成30年の豪雨災害のような事態に、被災した事業所が状況を伝える、支援物資を運んでほしい、負傷者が何人いるとか、助けに行けるスタッフがいたりとか、移動が危険なので消防に支援をお願いする等の情報交換ができれば。

E M I Sで実際に訓練をした際に、上手く活用が出来なかった。皆さんが使いやすい、あって良かったと思うようなシステムにしていきたい。

私が配置医師をしている施設も、当時は1階が水に浸かってしまった。こういった時に早く情報があれば、もっと違った結果になったかとも思う。

野村委員：災害はいろいろな物が想定される。災害ごとにいろいろな運用があると複雑になり困るので、皆さんが使い勝手が良いものになれば。水害、土砂災害、交通災害もあるだろうし、災害一言でまとめるのは簡単だが。

鶴見委員：市役所でラインワークスを使用している所属はどこになるのか。

事務局：地域包括支援センターの他に、健康づくり課と消防本部になります。

鶴見委員：市役所の防災体制とラインワークスをどう結び付けていくか考えないといけない。介護事業所が発信した情報を、どのようにまとめていくのか。それをまとめるマンパワーも必要な事になりますし。

事務局：災害発生直後は市役所の防災担当課が中心に動くようになりますが、災害が少し落ち着いた段階の情報共有について、ラインワークスをどのように活用していくかという考えもあるかと思う。事務局も詳細なイメージを詰められていないが、今後検討をしてきたいと思う。

仲田会長：災害時の活用という事で、消防本部の意見も取り入れることにもなるかもしれません。その際は、よろしくお願いします。

森宗委員：E M I Sの機能で、救急で多数の傷病者が発生したとき、地域ごとに指定して、医療機関から傷病者の受け入れが何名できるかと

いった情報が双方向に入るようなツールが入っている。

(4) 高梁かngoねっとについて P 9 ～ 1 9

野村委員：森宗委員にお伺いしたいが、救急医療キットの持参がないとの意見がありますが、キットの運用状況はいかがでしょうか。あつて便利な情報が入っているのでしょうか。

森宗委員：統計は取っていないが、私自身が、救急の現場にいた経験もあり、何回かキットを持参して医療機関へ搬送した事はある。確かに、キットの無い家や新しい情報が入っていない方もおられた。キットの情報更新については、消防本部として課題と感じていたところ。出来ることとして、老人クラブへ講話をする際に、キットの更新についてお伝えをしております。

事務局：地域包括支援センターとしても、民生員会等で更新についてお伝えをしている。キットの配布・更新については、熱心な地域、そうでない地域があるのが正直なところ。

三尾委員：キット配布希望者は、地域包括を案内したらよいですか。

事務局：そうなります。

森宗委員：キットはアナログなやり方にはありますが、有効なツールだと思います。国はデジタル化を進めているが、あれば便利な情報なので、こちらも活用を推進できればと思います。

鶴見委員：キット配布者のリスト化は出来ているのか。

事務局：一覧のエクセル表で管理している。

鶴見委員：リストの整理はどういった状況でしょうか。

事務局：亡くなった方、施設に入った方はリストから削除してはいるが、完全ではない。

仲田会長：かngoねっとで、病院の壁を越えて新人教育を実施しているのは、素晴らしい取組み。あまり聞いたことがない。素晴らしい事だと思う。継続できるよう、皆様のご協力をお願いしたい。
施設系の看護師の方も、介護系の職員の方も、研修に参加していただけるよう協力をお願いしたい。

野村委員：吉備国際大学の竹崎先生が、看護師の離職等のデータをまとめて学会へ報告する事を聞いたように思うが、かngoねっとで何か情報を把握していますか。

原田委員：特にこちらでは把握していないが、昨年度の職員の入職や離職等

について、市内4病院の看護師長に報告してもらっているのです、その情報はあります。

野村委員：学会へ発表した資料もあれば、参考になると思うのでお願いしたい。

原田委員：皆さんに、就職して1年が経過した看護師の感想を是非見てもらいたい。1年の成長を大きく感じる内容になっている。私としては、1年で地域の看護師になっている事が嬉しく思います。

仲田会長：出席の皆さんから、全体を通して何か意見や感想等がありますか。

田頭委員：かんごねっとについて、高梁市で人材確保、定着、プリセプターのフォローまでしている。こういった地域は初めて。保健所としても協力していきたい。

熊本委員：かんごねっとですが、研修を岡山まで出かけないでも、受講出来る。このまま頑張っていきたい。

笹川委員：看護師の育成に力を入れている。薬剤師会にはない取り組み。看護師だけでなく、他の職種も見習っていきたい。

荒木委員：日々の業務が忙しい中で、なかなか研修に参加できていないが、新人育成について、同じ目標を持って取り組んでいる事は羨ましい。

植田委員：ラインワークスですが、退院支援で日々活用している。動画撮影して、有効に活用出来ています。

仲田会長：災害時にもラインワークスで、被災状況を画像や動画で共有できれば、便利だと思う。

鶴見委員：どの職種も人材不足。他の職種でも同じような取り組みができれば。ラインワークスを活用してもよいのでは。

事務局：既に介護事業所の研修負担軽減で、ラインワークスを活用して共同で研修開催しています。

仲田会長：カンボジアからの新見共生高校への留学生。非常に優秀な人材。吉備国際大学へ進学し、ゆくゆくは地域の看護師として活躍してもらえれば。長い目で見て地域で育てて欲しい。こういった外国人材の活用は、これから必要になってくると思います。

また、多職種の若い人材が参加できる研修会を、この事業でできればと思います。また、実務者部会の方にも企画をしていただきたいと思います。